

沖縄 21世紀ビジョン (仮称)

「時代潮流と課題認識」についての意見

有限会社アンテナ
石原地江

【私の考える課題】

- ・ 沖縄をリードする企業の多くは、県の参考文献の言葉を借りると「基地依存型輸入経済」、最近では「官公庁依存型」という経済環境のもとで成熟してきたと考える。ものづくりの仕組みや技術が育ちにくかったのも、沖縄県独自のビジョンが描きにくかったのも、このような経済の環境に関連性があるのかもしれない。長いものには巻かれろという楽天的な企業体質を許していた考え方や環境に、課題があると思う。産業ごとに分かれて考えるのではなく、企業全体に基本的ビジョンを共有する必要がある。

【時代の潮流】

- ・ 20年後の働き手には、グローバルな発想（他地域への理解）と同時に自分の地域への思いやりをもち、古い慣習にとらわれない人材が増えるだろう。自分の周囲の人間のためだけでなく、地球全体に目を向けた世界観を持つ経営者等と行政が協働できる仕組みや考え方をサポートする（民間と行政の）関係作りが理想的。

【企業人の立場からみたあるべき沖縄の姿】

『民間企業のがみなぎる地域』

- ・ 働く人のための、働くことに関する教育が充実している。（企業と職員が共に成長する環境）
 - 年収やステータスも重要だが、表面的な判断におちいることなく、企業の本質やビジネスの将来性と、自己の価値観および成長を重ねあわせ、働くことで、人生の夢を描ける会社が育つ地域となる。
- ・ （人材を含む地域資源を活用する）地域企業等の経営能力向上のための支援の充実
 - 県内企業が世界経済で勝負することができるよう、厳しく本質をついた「経営力」を応援する環境。
- ・ 企業の地域貢献に対する社会評価の確立
 - 世の中のために行動を起こし、それを継続する企業を地域全体で感謝できる。多大な寄付など目立つものだけでなく、小さな会社でもできる社会貢献を促進する環境をサポートして、企業の大小にかかわらず会社と生活者とのかかわりを深くし、企業活動が社会に直接役立つシステム。

一言で言い表すと。。。

2030年、沖縄のあるべき姿は、

One for all, all for one!

(一人はみんなのために、みんなは一人のために)
と考えます。

以上、課題等について意見を整理いたしました。